

御屏風十帖略 四尺六帖和繪

〔日本紀略醍醐〕延長六年十二月口日令大内記大江朝綱作御屏風六帖題詩令少内記小野道風書之

〔小右記〕長德五年長保元年十月卅日己卯藤相公同車參左府西京略右大辨行成書屏風色紙形華山

法皇主人相府右大將右衛門督宰相中將源宰相和歌書色紙形皆書名後代已失面目但法皇御製

不知讀人左府云書左大臣件事奇怪事也主人責余和歌致獻詞不承引右大辨書了主人志馬大丞

下庭中執馬綱小拜出余黃昏歸今日主人爲余有和歌

〔權記〕長保六年正月廿六日辛亥依左府召詣書明日女一宮御對面料四尺屏風四帖色紙形和歌申

雜事入夜歸來

〔古今著聞集七能書〕知足院入道殿法性寺殿と久安の比より御中心よからずおはしましける時法

性寺殿まいらせ給たりけるにこゝろみ申されんれうにや四枚屏風を一帖めしよせさせ給ひ

て是に物書て給へと申されたりけるに御視引よせさせ給て墨をえはしすらせ給て中にもち

いさかりける筆をとらせ給て紫蓋之峯嵐疎と三句を大文字にて四枚に書みてさせ給てまい

らせられたりければ禪閣御覽じてこれは重物なりとてやがて寶藏に收られけるとぞ

〔明月記〕寛喜元年十一月十四日戊寅早旦詣相國奉謁歌事猶被示合有不甘心事等只今參入可申

先可持參此歌由被命二卷也先參殿申其由屏風已調出在御前但云畫圖之體總天金物等期日

可直由被仰行兼承之所調也小時相國被參於二棟南面又評定被入替今度書定了有長讀上又書付

之殿下五首元日鹿田家千鳥雪太相國八首若菜柳櫻更衣大將六首梅早苗菊紅下官七首蘆葵置麥虫雁宰

相三首山吹郭前宮内卿七首鷹納涼六月被野花三位知家二首山井藤撰定了有長朝臣可清書

由被仰行能朝臣依召參入於屏風者明日可給予先給之可撰字由申之予申此由但普通之假名可